あすなろだより

発行
社会福祉法人
松園福祉会
あすなろ園家族会
倉敷市玉島男砂1,044
電話 086－528－3110
FAX 086－528－3255

敬老祝賀会と誕生会が同時開催！

長寿のよろこび　みんなのしあわせ

「長寿のよろこびみんなの幸せ」をテーマに九月十五日、敬老祝賀会と九月の誕生会が二階食堂で開催された。中塚理事長挨拶の後、来賓の祝辞が岡山県倉敷振興局高木次長、倉敷市高齢者福祉課藤井係長、倉敷市社会福祉協議会遠藤会長、難波辰史市議会議員からそれぞれ述べられた。次に記念品贈呈になり、満百才の大橋ハマさんに総理大臣祝状と銀杯が、又倉敷市から百三才の小林実一さん、米寿の原田美野さん、喜寿の笠原コセノさんに祝いの品が手渡された。

受賞者を代表して笠原コセノさんが謝辞を述べた。そして黒崎中学校の栗山校長の音頭により、全員ジュースで乾杯。くす玉が割られ会場いっぱいの拍手で式典は終わった。

つづいて、祝賀会と誕生会に入り、九月生まれの四人に誕生祝いの記念品が贈られた。

アトラクションとして、八幡婦人会の踊りと、岡山県大正琴愛好会による大正琴の演奏があり、楽しいひと時を過ごした。

昼食には、敬老弁当と鯛の活け造り、そして希望者にはお酒も出され、長寿と健康を全員で祝った。

施設介護から在宅介護へのニーズ

老人保健福祉計画《PART 1》

あすなろ園理事長　中塚正人

高齢化社会とか超高齢化の伸展という活字や言葉がよく私達の耳や目にとびこんでくる。本園は平成三年十一月に開園、満三才を迎えようとしております。

この間、施設介護いわゆる園の充実に積極的に取り組んで参りました四つの専門部会の設置に引き続き、本年より食事介助、入浴、排泄の三つの研究部会を置き、寮母、職員が一丸となって研究討議を重ね本園独自の介護の在り方について一つの方向性を見い出す為に、取り組んでいるところであります。

一〇〇%離床の確立とクオリティ・オブ・ライフ（生活の質の向上）、介護技術の充実をめざしているところであります。

ボランティア活動の方々を始め地域の皆さん、家族会や多くの人にご援助をいただき施設介護の充実向上に今後共、全力で研鑽を積んで参ります。

この上に立って私共は、次のステップとして在宅介護の支援に力を注いでいかなければなりません。

ご承知の通り我が国の国民性として、我が家で老いていきたいという強い願望があります。

平成五年三月にオープンいたしました在宅介護支援センターの活動状況や、高齢者の方々のアンケート結果でも、そのことがはっきりとうかがうことが出来ます。

倉敷市老人保険福祉計画にも、指摘しているように、福祉の推進にあたっても、ノーマラゼーションの考え方が重視され、在宅福祉を中心とした考え方へ移行しつつあります。

年をとっても介護、看護の援助が必要になっても、可能な限り住み慣れた家庭や地域で、家族や友人とのふれあいの中で生活したいと言う願望は誰しもあります。

その願望をいかに生かしてあげるか私達施設介護が在宅の中に、いかに支援することができるかが、施設介護に携さわる者の大きな使命となってまいります。

そういう意味で本園の在宅介護支援センターでは、在宅入浴サービス、ホームヘルパーの派遣事業、ディサービス、ショートステイと従来のサービスに加え、ご相談を受けた場合、家族との面談、本人との面接を積極的に行い、ニーズの把握と適性なサービスの提供を行っています。

施設と在宅におけるサービス目標水準が、示されておりますが、今後ニーズや在宅での生活の実態にあわせ、さらに食事サービスや地域での家族介護者教室の実施により相談指導に取り組んでいかなければなりません。

二十一世紀の高齢化に向け私達は、大きな使命を担っていることを一人一人が、自覚してしかなければなりません。

▲ 入園者と交歓するインド勤労青年団

＊＊＊

あすなろ園との交流

黒崎中学校長　栗山英俊

黒崎中学校では、生徒会が企画し、土曜日の放課後や夏休みなどの長期休業中を利用して、定期的にあすなろ園を訪問させていただいています。訪れる前には、自分たちに何ができるか、どうすればおじいさんやおばあさんたちに喜んでいただけるか、生徒たちは真剣に考えます。園に行くと、おじいさんやおばあさんと話をしたり、いっしょにゲームをしたり、掃除を手伝ったりして、ひとときを過ごします。帰るときは、何か大きなものを手に入れたような気がして、感謝の気持ちでいっぱいになりうれしいに近いのだけど、また少し違う気持ちになるそうです。

今年初めて、あすなろ園のお年寄りが文化祭に来てくださいました。おじいさんやおばあさんの姿を見ると、生徒たちは、すすんで車いすを押し、席に案内していました。舞台で演技する姿は皆一生懸命でした。おじいさんやおばあさんも生徒たちが演じる琴の演奏や劇や合唱などに真剣に耳を傾けられ、中には、手や首を振って拍子をとっている人もおられました。終わるたびに懸命な拍手、おじいさんやおばあさんは、終始にこやかな表情で楽しんでくださいました。お年寄りが帰られるとき、どこからともなく、拍手がおこり、それがしだいに大きくなって、やがて体育館が万雷の拍手でつつまれました。「ようこそおいでくださいました。また来てくださいね。」という願いが込められた拍手は、いつまでもいつまでも、鳴り止みませんでした。

このように、黒崎中学校は、あすなろ園とお付き合いをさせていただいています。中学生がお年寄りと触れ合う機会を得ることは、相手の立場に立って物事を考え、行動する人間に育つために、たいへん大切な活動です。また、この時期に、ボランティア活動に参加させ、手を携えて共に生きる喜びを味わう体験をさせることは、一人ひとりの生徒に心の充実感を経験させ、生きがいをもたせることにつながります。これからも、学校を挙げて、ボランティア活動に取り組み、あすなろ園との行き来も続けさせていただきたいと考えています。

少女の瞳に映るのは
少年の恥じらうような微笑に
かけがえのない命の歴史
老いのこころが
限りなく深い慈愛
明るんでいく

ボランティア

これからの二十一世紀、高齢者時代を迎え多様化する福祉ニーズに対応するためには、地域のボランティアの温かい手が愈愈必要となって来ます。

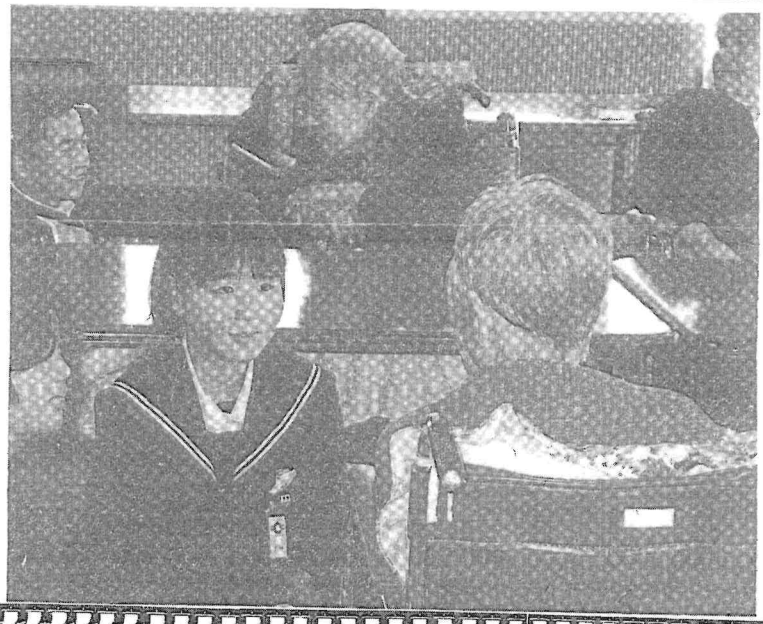
あすなろ園へも、多くのボランティアの方々が訪れ、限りない人間愛で支えてくれています。この方々に心から感謝申し上げますと共に、このパワーを結集して、必要な時必要なだけ対応できるボランティアの組織化が重要ではないでしょうか。

園長　虫明正雄

▼ 八幡婦人会の皆さんの踊り

▼ 藤原カラオケ練習場の皆さん

▼ 大正琴愛好会の演奏



▲ 若柳静寿恵会の舞踏

▲ 美容ボランティアの皆さん

ボランティアの皆さんありがとうございました
六月一日～十月十日
（順不同・敬称略）

森分　広子　真田　美沙子
中村　伊久代　清水　輝子
浅原　二三江　原田　アツ子
西　れい子　原田　絹枝
森田　静子　原田　千世子
道田　緑　原田　美和子
小室　美枝　三村　良子
岡本　千代子　佐藤　ゆみ子
亀山　球子　荒井　美紀子
亀山　奈津江　藤原　茂夫
西井　次子　中野　厚志
西井　光子　増田　大介
三村　豊子　小林　みどり
秋山　和恵　興梠　よしみ
佐藤　和枝　泊ケ山和美
滝沢　英子　藤本　裕子
中山　光子　渡辺　ゆかり
福田　操　石田　俊子
竹之内昭子　井上　惠子
岡　智美　屋村　とみ子
赤沢　信枝　尾崎　邀子
井頭　ミユキ　河田　君子
岡　照恵　北見　澄子
小野　シズ子　長楕　睦子
小野　鶴子　疋田　智子
川本　清子　藤原　伸子
久保　澄枝　堀内　久子
近藤　純子　虫明　かつえ
仲　桂子　森　恵美子
中井　紀代子　山下　梅子
西山　ヒサエ　関島　元美
原田　雅子
平松　邀子
横田　廣
藤原カラオケ練習場
いずみ乙島保育園
黒崎中学校生徒会
若柳静寿恵会
小野美容室
畑田麻佐子（以下五名）

ありがとう！ボラ

◀中原さん、松原さんの琴の演奏

▼いずみ乙島保育園のよい子たち

▲沙美婦人会の皆さんの踊り

八月一日　月曜日

初めての体験をした。

「まず名前を覚えてちょうだいよ」「この人はTさん」園長先生はTさんをゆっくり起こされ「なかなかこの人は難しいんよ」とおっしゃった。「ありがとう」と言う私の声は小さすぎてTさんに聞こえなかった。Tさんとの出会いは『あすなろ園』で一番最初だった。

Aさんとの出会いは、はっきり思い出せない。ただ最初の日から一緒に歩いたと思う。昼食の時間になるとAさんはきちんと独りで食事をしていた。昼からもAさんと一しょだった。「帰りたい」と言う話を聞いた。「おじいさんが死んだんじゃ。じゃから、いのうと思よんよ。」と私に説明してくれた。

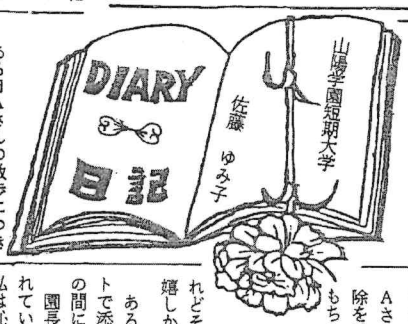
私は短大一年の時、初めて語学研修でアメリカに行った。いろいろなことが重なってホームシックになった。ただ悲しくて悲しくて一週間ずっと辛かった。Aさんもこんな思いかもしれないと思うと涙が出そうで「帰ったらダメ」とは言えなかった。

八月二日　火曜日

朝、Aさんと少しだけ一緒にいた。それから洗濯のお手伝いにいった。タダノさんに洗濯機の使い方を教えて頂いた。洗濯物の多さと洗濯機の大きな音に驚いた。「朝から晩まで洗濯されるなんて大変ですね」と私が言うとタダノさんは「すきだからね」と笑って言った。「洗濯物が乾くまで寮母さんを手伝ってあげてね」とおっしゃったので寮母さんの所へ行った。中村さんはおしめ交換をされていた。

最初はおしめのセットの仕方を教えて頂いた。本当に初めてでお手本を何度も開いたり閉じたりしておしめのセットを作った。正直言って中村さんのおしめ交換におどろいた。便が出ていたおしめをさっと取って清拭できちんと拭いてきれいなおしめと交換する。手に便がついても何ともなく、「たくさん出て良かったな」と、にっこりされた。便は汚い物でなくて生理的なもので大切なんだと解った。そして、実際「おしめ交換」をさせて頂いた。できた時はとても嬉しかった。今日はすごい。「洗濯機の使い方、おしめのセットの仕方と、おしめの交換、ドライヤー、少しずつだけどできた」何かできる事がこんなに嬉しかったのは久しぶりだった。まだ五人の人の名前しか覚えられてないけれど、もしかしたら、おしめを交換をしたり、ドライヤーをしたり、水分補給をしているうちに自然に名前を覚えていくかもしれないとおもった。

私のノートにはたった二日間の記録しか残っていなかった。毎日同じ事をしている筈なのに絶対同じ日はなかった。



ある日Aさんの散歩につき合うのが楽しくなっていた。寮母さんに「疲れるでしょ」「ごめんね」と言われたけれども内心は「Aさんと一緒だと楽しいです」と浮かれていた。二階の食堂からベランダへ出てベランダを何周も回った。歩いて疲れたら一緒にすわって空や山や車を眺めながら「帰えれんなあ」と話をした。おじいさんが死んだことも、Aさん自身があすなろ園にいなければならないことも、Aさんはすべて分かっていた。それでも「おじいさんが心配だ」と言って帰ろうとした。何もしてあげられない自分が情けなく涙が出た。

その日も暑い日だった。例によって、疲れたAさんと私は腰を降ろした。「いぬる」と言うAさんを止めようと説得した。「あんたがいくらいろいろとゆってもわたしゃいなにゃおえんのじゃ」とAさんが言ったその言葉で私は何も言えなくなった。私は黙っていた。「人は死ぬせんといけん時もあると思う。」言ってはいけないことだと思ったけれど「人に迷惑かけちゃいけんわ」と言ってしまった。しばらくしてAさんは「自分でできる事をせにゃならんな」と呟いた。一瞬、私はAさんのことばに驚いた。それからAさんはゴミを拾ったり、掃除を手伝ってくれたりした。もちろん毎日ではなかったけれどそのことが分かったので嬉しかった。

ある日のことAさんのベットで添い寝をしていたらいつの間にか、眠っていた。

園長先生は後で、「くたびれていたんじゃな」と言われ、私は恥ずかしかった。

Kさんがお盆の帰省時期にごはんを食べなくなって「殺せ、殺せ」と言った時、井上さんが「Kさんは帰省時期にはああなるんです。何も言わなくても雰囲気で分かるみたいで。帰省時期が過ぎれば落ち着かれると思うんだけどね」と教えて下さって、Kさんも『帰りたい』んだ。と思うと大きな声で「殺せ、殺せ」と言う声が響いてやっぱり泣いた。点滴をしている時や目をつむっている時「Kさん」と声をかけると「なんじゃ」と言ってにっと笑ってくれた。手を持っていると悲しかったNさんも楽しい思い出をつくってくれました。「リズム体操にいきませんか」といったら「出雲大社へいくんか」「今からじゃったら時間かかろう」と言われて、私は発音が悪いのかもしれないと反省したものだ。

辛くて悲しい時、泣いた時支えてくれたのは寮母さんでもあり、創造の資質をもった人のように思っていましたが痴呆になり、「金を取った」「毒を入れた」「腐った物を食べさせた」等々。どうしてすべてを悪い方にとるようになったのでしょうか。本人もさぞ苦しい日々であったろうかと思います。

今から十数年前のことです。フィリピン、ミンダナオ島の西に広がるスルー海を訪れた時のことです。

そこにはシージプシーと呼ばれて、小船を家として漁業を営みながら一生を送る人達がいます。

一人のおじいさんが日除けのテントの下に横たわりながら、我々訪問者に対して僅かに手をあげて微笑んでいるのです。そして息子さんの妻と思われる人に何か言いたげな視線を送るのです。その表情は「客をもてなすように」と言っているように感じました。女性は船底から大きな五色海老（イセエビの仲間）を取り出して茹で始めます。この海老は高価に売れる筈です。

私達はその五色海老を微笑みを返しながらいただき、船を去って行きました。

いつの日か・・・・・

輝く太陽の光りを受けて遥き通るスルー海、珊瑚でできた真っ白な砂浜、その木陰に舟型をしたシージプシーの墓標が立っているでしょう。

全てを運命として、達観したように微笑み、静かに死んでいったであろうシージプシーのおじいさんと私の父とどちらが幸せであったでしょうか。

十数年に亘る父母の介護が終わった解放感の中で、苦しかった闘いの日々を想い残りすくない人生なれど真剣に、「老人福祉」の為に小さなボランティアとしての第一歩を踏み出そうと決心しました。

線香の煙は柩の上を静かに流れています。妻が一枚の紙を手渡してくれました。

忍の文字　幾年重ね　落日の　夕べにけむる　香が目にしむ

堅く冷たくなった父に死装束を付けた時落とした涙。それには複雑な心境が入り乱れているのでしょう。

合掌

闘いの日々を終えて
（百二歳の父を送って）

小林歌男

ショートステイを利用しながら、昨年十二月正式に、あすなろ園へ入所し、暖かい介護を受けていました。父実一が百三才をもちまして、十月三日に他界しました。

あすなろ園の皆様に生前のご厚情を心から御礼申し上げます。

通夜の宵の弔問客も絶え祭壇の前に座っていますと過ぎし日のことが走馬灯のようにあれこれと想い出されます。

「オーオー」と言う父の声が家から二百メートル程も離れた墓所まで聞こえてきます。

「チョット　けー」と言っているような声が微かに聞こえたように思われ、急いで墓掃除をやめて家に帰ってみますと庭の中程までいざりながら出ています。

「何ネ？」

「この家はのー、市役所が管理しているんじゃ。お前はこの家から出て行け。儂は春子さん、夏子さんを入れて共同生活をするんじゃ。色々考えたがこれしかない。

「その人達は、みんな幸せに暮らしているから、そんなことは無理だと思うヨ。

「儂を好いているんじゃ。儂が養うてやるんじゃけん喜んで来ら！」

「月三万円の年金でどうして暮らすの？」

「一人口も、二人口も、いっしょじゃ。」

「そんなら病気になった時は、誰が病院に連れて行くの？」

「子が親の面倒をみるのはあたりまえじゃろうが。お前は親の面倒がみれんと言うのか。教えてやるがのー、親に孝行せえ、立身出世して親を養うもんじゃ。」

「わかった、わかった。」

「三人を呼んでけえ。」

「それはできん。」

「親の言うことが聞けんというたな、もう頼まん。」

父は這いながら「オーオー」と言いつつ門を出て行った。

若かりし頃の父は理解力もあり、創造の資質をもった人のように思っていましたが痴呆になり、「金を取った」「毒を入れた」「腐った物を食べさせた」等々。どうしてすべてを悪い方にとるようになったのでしょうか。本人もさぞ苦しい日々であったろうかと思います。

今から十数年前のことです。フィリピン、ミンダナオ島の西に広がるスルー海を訪れた時のことです。

そこにはシージプシーと呼ばれて、小船を家として漁業を営みながら一生を送る人達がいます。

一人のおじいさんが日除けのテントの下に横たわりながら、我々訪問者に対して僅か

ふれあい喫茶

毎月第二日曜日家族会が終わった後、午後二時から四時までと、第四日曜日にはふれあい喫茶が二階大食堂で開かれます。メニューは旬の物を使用したスペシャルジュースを始め、担当寮母さんの創意により、素敵な飲み物とおいしいお菓子が奨されます。ご家族の方々と楽しい一刻を過ごすグループも数多く拝見されます。

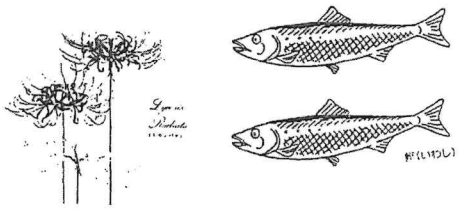
これからもたくさんの方のご利用をおまちします。

翌檜歌壇

▼美しき老ひを願いて今日も生く
▼さりげなく手をかす人の温かさ
▼つつましく生きて悔いなし友もあり
大橋　ハマ（百歳）

▼故郷で　一夜の宿　座敷かな
▼夕食　鰯のニモノ　味のよさ
▼週一度　唄う民謡　武田節
三石　政雄

▼恋かしら看護の方に一寸惚れ
思慕の情胸に植え付け距離をおく
握手した温かみがのこる片想い
▼断水のいつまで続く秋彼岸
（ディ・サービス）
河田　敏夫



「平成六年度痴呆性老人処遇の技術、実践研修センターに参加して」

平成六年度痴呆性老人処遇技術研修、実践研修が第三日本原荘に於いて三カ月で四週間行われ参加させていただきました。　研修の目的は超高齢化を目の前に控え老人人口の増加それに伴うさまざまな高齢者問題が提起されていますが、中でも痴呆性老人問題は社会的課題として各々の面で注目されています。

一方、施設の受け入れ体制も十分でなく対応が急がれている痴呆性問題を施設福祉、在宅福祉の両面から推進していくうえで痴呆性老人処遇技術に関する実践を行い、処遇技術の向上を図りサービスをになうマンパワーの養成と質の向上を目的としています。内容は痴呆性老人の日常介護の上での問題点、痴呆性老人の理解、健康管理、観察、記録等を勉強しています。まず始めに痴呆の原因を見つける。そしてその人に合った処遇をする。その為にも専用施設が必要であります。まだ、その施設は限られていて、ほとんど混合施設です。混合だと他の利用者に迷惑をかけるようになり本人も精神的に不安定になり問題行動も多発します。

一方、専用施設だと同じレベルの人達ですから自然と仲間意識もでき、お互い仲良くやっていけるし、処遇も個別処遇から集団処遇へと変わっていきます。私のように特養の職員が痴呆専用施設へ行くと生活環境が違う為、戸惑い、分からないことが多く、頭で思っていても行動が伴わないことがよくあります。自分がいらいらすると入所者の人もすぐ分かるものです。顔見知りでないとよそ者です。なかなか声をかけしても答えは帰って来ない痴呆性老人と付き合うには気長な介護が必要であることを知らされました。

これからは研修で学んだことを参考にしながら、施設生活がなお一層楽しく住みよい生活の場であるよう、そしてより豊かに人間らしく生きられるように援助していきたいと思っています。

寮母主任　原田スズコ

家族会のお知らせ

●あすなろ園家族会の開催　日時　毎月第二日曜日午前十時から開始しております。一名でも多くのご参加をお願いします。

●あすなろ園第四回家族会総会　十二月十一日（日）午前十時三十分から開催いたします。詳細につきましては後程ハガキでおしらせします。

「小さな幸福」

木口美智子

忘れもしません、同居して六年目の秋、今から十三年前の事です。

姑が痔の手術をして二週間後、脳血栓で倒れ、植物人間の様になってしまいましたが、四カ月間の入院後、オマルへ一人で排便、排尿が出来る様に成って退院をしました。

姑が倒れて二日後には舅が肺炎で入院しておりました。それ以後、我が家に病魔が住み着いたのが、一年後には舅が脳血栓で入院、狭心症、白内障、抹消動脈硬化病等等・・・・。

二人が交互に入退院を繰り返し、その間手術も数回、姑は倒れて七年目に脳腫瘍の手術後まったく言葉を忘れ、話せなくなりました。

二人の我が子もまだ小さく大変な毎日でしたが、病院も近いし、私自身まだ若かったので、一晩、二晩寝なくてもどうにか耐えられましたし、兄弟の協力もありましたので、頑張ってきました。

それが二年程前姑が血を吐いて入院。主人は主人で、六年前から歩行困難で苦労しておりましたが、とうとうお風呂にも這いながら行く様な有り様になり、入院、私は私で手術をする様に言われてしまいました。

姑には付き添い婦さんを頼んでいましたが、夜に成ると暴れて、言葉に成らない声を発し点滴やベットの柵を抜いて、一晩中暴れる為、私も付き添いをしなければ、付添婦さん一人では、毎晩毎晩とても無理でした。

この十三年の間、この時程大変な時はありませんでした。自分達で何とかしなければ、だれも助けてはくれません。

役場にも行き、老人ホームにも数箇所行きましたが、一、二年待たないとどこも一杯ではいれないとの事。日夜悩んでおりましたら、病院であすなろ園の事を聞き、ワラにもすがるおもいで電話しました。事情を説明し、快い返事を頂いたときは涙が出る程嬉しかったです。

入所が決まって姑をあすなろ園に連れて行く日、車の中で「可愛いがってもらうんで」。」と言いながら頭をなでていたら、病院に通った日々、付き添いをしていた日々、家での出来事が走馬灯の様に浮かんで来て、なぜか涙が出たのを思い出します。

あすなろ園にお世話に成って二年六カ月。入所当時、うつろな目をしていた姑も笑顔を取り戻し、言葉も出るようになり落ち着いた日々をすごしている様です。

我が家も主人の手術が成功し、私も手術をすませましたし、あれから舅も一度も入院する事なく毎日を過ごしております。

あの大変な時を乗り越えて、この静かな幸福があるのも、しあわせの里、あすなろ園の皆様のおかげだと心から感謝しております。

楓風の日々から⇨⇨⇨しあわせの里へ

▼秋深く
虫の声さへ
とだえがち
落ちる紅葉の
色もさやかに

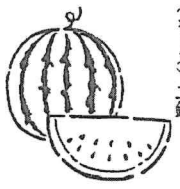
▼街路樹の
落ち葉を飛ばす
秋の風
松原八千代

ご寄贈御礼

六月一日～十月十日

（受付順・敬称略）

平岡　勉　金一封
平田　幸子　金一封
中藤　光広　金一封
大島　清道　金一封
宇渡　務　金一封
原田　道子　金一封
八幡婦人会　金一封
倉敷市玉島地域わかち合いの会　金一封
NTT倉敷　寛友会　タオル、石鹸
くめクオリティ・プロダクツ（株）　納豆
花王（株）　石鹸、シャンプー
住友重機工業（株）玉島製造所　上質紙
曽根ストアー　さくらんぼ
中国電力（株）倉敷営業所　野菜
金田　八千代　野菜
青江　正義　温浴器
藤澤　勝昭　桃
宗田　寛治　野菜
黒瀬　晴男　大きなすいか
田村　馨　桃
三宅　茂樹　桃
玉島ライオンズクラブ　ビニールシート　二十枚
田中製麺所　うどん
日本たばこ産業　たばこ
みちる保育園　あじさい
重野　昌祐　月下美人
金田　愛子　花
家族会　タオル
若山　美岐恵　金一封
小椋　昇　金一封
小野　勲　金一封
初村　木久昌　金一封
武縄　静夫　金一封
佐藤　雄二　金一封



新入職員紹介

がんばりますので
よろしくお願いします
看護婦
岡田　富喜子

一陽来福

虫明園長が大切にしていた一枚の写真に若き日に読んだ詩人「ハイネ」の小さい瞳は青い菫（すみれ）かわいい頬は紅薔薇あどけない手は白小百合・・を思い起こしました。

前代未聞の高梁川流域に水不足、記録的な酷暑を乗り越えたが、それでなくとも歳とともに萎える気力を取りもどそうと思い今回四頁版にする決心をしました。

多くの原稿を寄せて頂いた方々に感謝致すと共に貴重な原稿を紙面の都合上割愛せざるを得なかった事を御侘び致します。

中藤和雄